31日　月曜

創世記

41:46 エジプトの王ファラオに仕えるようになったとき、ヨセフは三十歳であった。ヨセフはファラオのもとから出発して、エジプト全土を巡った。
41:47 さて、豊作の七年間に、地は豊かに実らせた。
41:48 ヨセフはエジプトの地で穫れた七年間の食糧をことごとく集め、その食糧を町々に蓄えた。町の周囲にある畑の食糧を、それぞれの町の中に蓄えたのである。
41:49 ヨセフは穀物を、海の砂のように非常に多く蓄え、量りきれなくなったので、ついに量るのをやめた。
41:50 飢饉の年が来る前に、ヨセフに二人の子が生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが産んだ子である。
41:51 ヨセフは長子をマナセと名づけた。「神が、私のすべての労苦と、私の父の家のすべてのことを忘れさせてくださった」からである。
41:52 また、二番目の子をエフライムと名づけた。「神が、私の苦しみの地で、私を実り多い者としてくださった」からである。
41:53 エジプトの地での豊作の七年が終わると、
41:54 ヨセフが言ったとおり、七年の飢饉が始まった。その飢饉はすべての国々に臨んだが、エジプト全土には食物があった。
41:55 やがて、エジプト全土が飢えると、その民はファラオに食物を求めて叫んだ。ファラオは全エジプトに言った。「ヨセフのもとに行き、ヨセフの言うとおりにせよ。」
41:56 飢饉は地の全面に及んだ。ヨセフはすべての穀物倉を開けて、エジプト人に売った。その飢饉はエジプトの地でもひどくなった。
41:57 全地は、穀物を買うためにエジプトのヨセフのところに来た。その飢饉が全地で厳しかったからである。

Bible Reference 聖書の記述

ヨセフに子どもが生まれました。後のイスラエルのマナセ族とエフライム族の始祖です。このようにイスラエルの部族にはエジプトすなわち異邦人の血が混じっていたのです。神様のご計画は信仰の民、アブラハムの子孫であるイスラエルが異邦人とも深く関わりつつ、その希望となることでもありました。

また子どもたちの名前には、父ヨセフが苦労の中でも神様が守り導いてくださった証しがあります。それが子どもたちのアイデンティティーになっているのはすばらしいことです。このようにあらゆることを通して信仰を継承させていきましょう。

またヨセフは王であるパロの権力が大きくなることにも貢献しました。この箇所を見る限り、エジプト王の権力は全土の食料を確保して国民を支え、それゆえ国は秩序によって守られたようです。またその権力は暴動や他国からの略奪からも国民を守ったと思われます。このようにクリスチャンは、神様が社会を守るために与えた権威に貢献することも大切です。そのように自分に与えられた使命を社会的にも全うすることによって、ヨセフはかつて自分を売った兄たちとの和解が可能になったのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？